っておきのホテル&温泉へ行こう。

MEDIA HOUSE MOOK［ペン・プラス］

pen+ PLUS

with New Attitude

完全保存版

奇跡のホテル&温泉。

篠山城下町ホテル NIPPONIA
城下町全体がホテルという、新しい発想。

日本／兵庫県・篠山市

オナエ棟は受付やレストランがあるメインの施設。下屋と呼ばれる主屋から差し出してつくられた小屋根が、篠山城下町の町屋の特徴だ。

ノジ棟、シオン棟がある河原町エリア。間口が狭く奥行きがある妻入商家の町並みが約600m続き、店舗や飲食店が並ぶ。千本格子や荒格子、袖壁などが、往時の城下町の様子を伝える。

高い吹き抜けがあるサワシロ棟の通り土間は、モダンな家具が配され、心地いい空間に。上がり框（かまち）や磨りガラスの建具が懐かしい。正面2階の柵の向こうは、201室の渡り廊下。

1609年、徳川家康が大坂城包囲の拠点として築いた篠山城。その城下町として栄えた丹波篠山の地には、史跡や文化財が多く残り、伝統的な武家屋敷や商家の町並みが広がっている。丹波焼の里であり、丹波栗や丹波黒豆、松茸、猪肉など、ブランド食材の宝庫としても有名だ。近年は、里山の豊かな暮らしに魅了された、モノづくりに携わる若い世代が移り住み、新しいコミュニティが生まれている。そんな魅力あふれる町にあるのが「篠山城下町ホテル NIPPONIA（ニッポニア）」だ。

慈しむように再生された、古民家で安らぎの時間。

「ニッポニア」とは、各地の古民家を宿泊施設や飲食店としてリノベーションし、滞在を通して、土地に根付く暮らしや文化を体感する複合宿泊施設のプロジェクト。ネーミングの由来は、トキの学名「ニッポニア・ニッポン」からで、日本の宝である古民家や町並みを大切に守り、次世代につなげたいという思いが込められている。

その代表となるものが、〝宿〟だ。「400年の歴史に溶けこむように泊まる」をコンセプトに、篠山城跡を取り囲むように点在する5棟の古民家を改修し、城下町全体をひとつのホテルに見立てている。「オナエ」「サワシロ」「ノジ」「障子庵」「シオン」と各棟が菊の名前を冠しているのは、旧篠山藩主が将軍から「お菊菊」を拝領したと伝えられるなど、この地が古くから菊と深い関わりがあるからだ。

5つの建物はいずれも江戸後期から昭和にかけての歴史的価値の高いものばかり。その建物が最も輝いていた時代に戻すように、ていねいに改修が施された。家具や調度品はメンテナンスをしたり、形を変えるなどして施設内で再利用。そうして土地の文化や建物の歴史を大切にしながら再生した空間だからこそ、一歩足を踏み入れた途端、懐かしさや心地よさに包まれるのだ。12の客室がそれぞれ異なる個性的な表情で迎え入れてくれるのも、大きな楽しみのひとつとなっている。

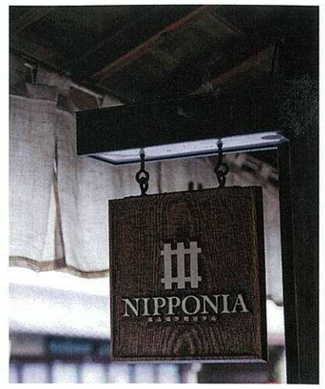
まず向かう先は、受付があるオナエ棟。ここでチェックインを済ませた後、各宿泊棟に移動する。オナエ棟は明治時代前に建てられた元銀行経営者の旧宅を改修した建物で、2階壁に設けられた虫籠窓（むしこまど）をはじめ、この地独自の建築様式が随所に見られる。格子の扉から、奥へ奥へと空間が広がっていく構造。受付は通り土間にあり、そのそばには滑車の付いた井戸やかまどが残されている。吹き抜けとなった上部へ視線を移すと、煤けた天井や壁が当時の暮らしを彷彿させる。

この棟の客室は5部屋。土蔵を改装した部屋は天井が高く、ゆったりと静かな時間を過ごせるし、離れは中庭と外庭を望める開放的なつくり。主屋の2階の3部屋も、屋根裏部屋のような客室や書斎付きなど、個性が際立つ。

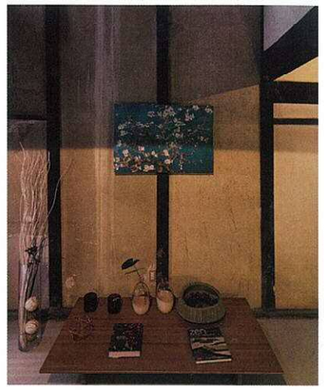
Sasayama Castle Town Hotel Nipponia

●兵庫県篠山市西町25　☎0120-210-289
全5棟12室　¥24,840～　※1室2名料金、朝食・夕食付き。
●アクセス：クルマで大阪市内から約1時間、京都市内から約1時間30分。
電車の場合、大阪駅よりJR福知山線・篠山口駅まで約1時間10分、篠山口駅から送迎あり（前日までに要予約）。
www.sasayamastay.jp

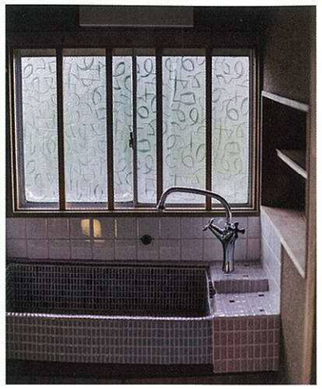
井戸や流し、かまどが残るオナエ棟の通り土間。床には荷車を引き入れるための敷石も。自然光がたっぷり入り、時間帯で刻一刻表情を変える。



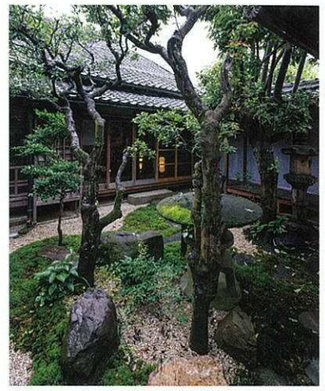
ロゴマークは、格子や障子をモチーフにデザイン。5棟は町に溶けこんでいるため、このロゴがあしらわれた白い暖簾を目印に。



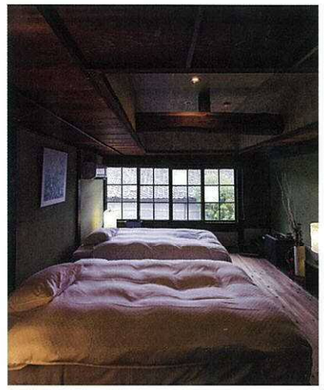
サワシロ棟の通り土間に設けられたコーナー。経年変化で独特の風合いを醸し出す壁とモダンなオブジェのコントラストが面白い。



サワシロ棟203室。レトロなタイルの洗面台や磨りガラスは昔にタイムトリップしたよう。水まわりは新しく整備されている。

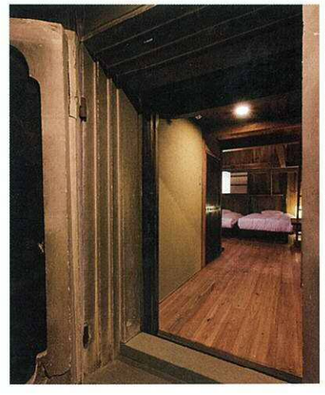


オナエ棟の灯籠がある中庭。手入れが行き届き清々しい。レストランと101室の和室、103室の廊下に囲まれるように位置。

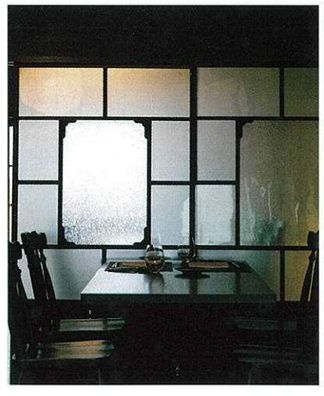


オナエ棟105室の寝室。段差天井とウグイス色の壁でしっとりした雰囲気。座卓を備えた和室もあり、作家部屋と呼ばれている。

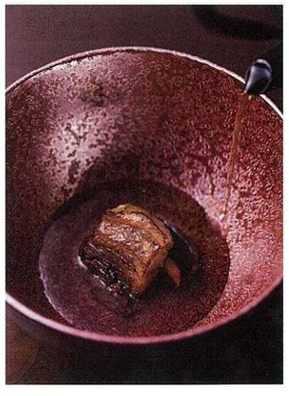
オナエ棟土蔵の2階の客室に向かう階段から見た、通り土間の吹き抜け部分。長い歳月を経た大きな梁を間近に見ることができる。



オナエ棟102室は、土蔵を改装。厚い扉の奥には和室のロフトと10畳の板間が。重厚感のある落ち着いた空間で、静かに過ごせる。



レストランはオナエ棟の受付の対面にある。ガラス戸に仕切られた4部屋を畳敷きから乗の板張りに改修。宿泊客以外も利用できる。



ディナーコース¥8,000より。「丹波猪の牡丹コンソメ 黒豆味噌の香り」（＋¥800）。長時間煮込んだ猪肉はやわらかく、スープはピュアで滋味深い。前菜「季節野菜のガルグイユ」と並ぶスペシャリテだ。ランチ、ディナーともコースのみ。

オナエ棟と同じ通り、歩いてすぐのところにあるのがサワシロ棟。ここはかつてお茶屋を営む店舗兼住宅で、玄関の接客台や茶箱にその名残が見られる。5棟の中でも最も古い建物で、こちらもまた通り土間がある奥行きのあるつくり。表通りに面したメゾネット形式の部屋、座敷を改修した格式のある部屋、離れ土間のある部屋が揃う。

町歩きを楽しみたいなら、篠山城を挟んで反対側の徒歩20分ほどの場所にあるノジ棟、シオン棟がお薦めだ。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されたエリアにあり、間口が狭く奥行きが深い妻入商家が立ち並ぶ、河原町の情緒を堪能することができる。

地元の豊かな食材をふんだんに使ったフレンチも、このホテルの大きな魅力だ。近隣農家から届く新鮮な野菜やブランド牛の但馬牛、特産品の猪など、素材の味わいを最大限に引き出した、目にも鮮やかな料理の数々は、旅をより特別なものに彩ってくれる。

創建当時のままの梁や柱、格子が美しい建具、ゆがみのある大正ガラス、タイル張りの洗面台。構造上問題がなければ、傾いた壁もそのまま。建物のあちこちに残されたディテールの一つひとつに懐かしさにも似た安らぎを感じる。そして、篠山の恵みを味わい尽くすような美味と、気持ちいい挨拶を交わしてくれる地元の人たち。まるで町全体に抱かれているような心地よさは、ここだけの特別な体験だ。

2018年秋までに10棟24室に増室を予定している。これからホテル、町、人がどのように溶け合っていくのか。展開が楽しみだ。